

千萬圓に進み、二十二年には七千萬圓となり、二十九年にては一億三千萬圓に進み、三十三年には二億四百萬圓に達せり、(此外臺灣に一千一百万圓の輸出あり)頗る著しき増加と云ふべし。

輸入額の遷

輸入額は明治元年には一千〇七十萬圓にして、今の綿花の五分の一にも及ばざりしが、此頃より國民の外崇熱を高めたる爲、其増加は輸出額の増加よりも一層速にして、翌二年には二千萬圓となり、其翌三年には三千三百萬圓に達し、輸出額の二倍餘に上れり、是より同十年までは其増加緩なりしが、同二十年に五千萬圓に進み、たれども、此間に内國産業は大に發達し、著しく輸出額を増加せしには若かざりし、二十三年に於て輸入額は俄に八千二百萬圓の巨額に上り、其

輸出額

輸出超過は二千五百萬圓となれり、是れ外國米の輸入多かりしによる、二十五年に七千六百萬圓に減じ、二十九年に一億八千萬圓となり、再び輸入超過は五千萬圓餘に及べり、三十年には三億四千萬圓の巨額に進み、輸入超過は一億六千萬圓なる未曾有の巨額に及び、三十三年には二億八千七百萬圓(此外臺灣に一千四百萬圓の輸入あり)に減じたれども、尙八千三百萬圓の輸入超過なり。

人口に對する輸出入額 前項に擧げたる輸出入額年々の増加は人口も亦從て増加するものなれば、直に以て貿易の進歩とのみ見るべからず、故に人口に對する輸出額を觀るに、明治十二三年までは我國一人口に付き八拾錢内外なり、じに、同十五年には一圓餘となり、最近にては四圓七十錢と







輸入額

なれり、故に我國輸出の進歩は人口の増殖比例よりも著しく發達せることを知るべし。又輸入額は明治十二三年に於ては人口一に付一圓拾錢内外、即ち我國品を外人に賣與する高よりも、寧ろ外品を購買する高は多額なりしが、同十四年より十九年までは八九十錢に減じ、最近にては又六圓六十錢となれり、されば全國の人口一に付四圓七十錢の國品を賣りて六圓六十錢の外品を買ふ有様にて、差引一圓九十錢の不利なり。

次に重要な輸出入品の貿易額を兩々相對比すれば次に示せる表の如し。

輸 入 部		輸 出 部	
前頭	前頭	前頭	前頭
前頭	前頭	前頭	前頭
前頭	前頭	前頭	前頭
小結	關脇	小結	關脇
關脇	大關	關脇	大關
棉花	砂糖	摺付木	茶
石油	金市	銅	羽二重
鐵類	米	生絲	綿絲
機械類			
五九四七	二六六一	四四六六	二〇五三
前頭	同	同	同
縮緬吳呂	綿絲	樟腦	磁器
七三六	七〇四	二〇七	一四一
前頭	同	同	同
乾藍	羅紗	木臘	椎茸
三九〇	二九七	五六	六九
前頭	同	同	同
汽船	汽車	洋傘	地氈
二六四	二四三	八七	八八
同	同	同	同
鐵釘	皮類	甲斐絹	昆布
二〇九	一一二	八八	八一
同	同	同	同
クローツ	フランケン	魚油	寒天
一一二	九二	九一	九六
同	同	同	同
時計			
七三			
輸出額	輸入額	輸出額	輸入額
二〇四二	二八七三	二〇四二	二八七三
超過	超過	超過	超過
八三二	八三二	八三二	八三二
明	明	明	明
治	治	治	治
十	十	十	十
三	三	三	三
年	年	年	年

政治地理第七編外交

三百五十九



臺灣の貿易は以上の外にして同地の貿易額は二千五百萬圓なり、内一千百萬圓は輸出なり、其最多額なるは茶にして五百三十一萬圓なれば、全額の過半を占む、次を樟腦(百七十四萬)砂糖(百六十萬)米(百三十萬)とす。輸入品は阿片を第一とし二百八十萬圓なり、次を米(二百六十四萬)綿布(百十五萬)とし、石油、豚木、材も輸入品の主なる物なり。

貿易額國別

我國と貿易取引の最も盛なるは北米合衆國にして、最近三年の貿易高は一億二百萬圓の巨額に上り、我貿易全額の五分の一餘を占めたり、而して其中、我國より輸出したる額は實に六千四百萬圓に達せり、故に米國は我國第一の花主と

米國向き品	米國より輸入品	清國へ輸出品	清國より輸入品
<p>謂ふべし、我國より米國へ輸出の多額なるは國産の最要品なる生絲にして、次を綠茶とす、絹手巾、米の如きも頗る需用あり、麥稈、サナダ、扇子、團扇の如きも、米人の愛する所にして、年々多量の輸出あり、又彼より我に輸入する最も多きは繰綿にして、次は石油なり、毎夜用ゐる「ランプ」の油は多分は米國産なり、次に鐵類、烟草の輸入も多し。</p> <p>○清國との貿易は、古昔は盛なりしが、中頃大に衰退し、近年又頻りに進歩したり、最近の貿易額は既に殆ど七千萬圓に達せり、其内輸出額四千萬圓にして、輸入額殆ど三千万圓なり、支那輸出品の重要なるは、近年我國に發達せる綿絲を最とし、全額の過半を占む、次は石炭、摺付木、海産物、洋傘、銅類とす、又輸入品の主なるは、豆類を第一とし、赤砂糖、油糟、綿、羊</p>			



毛鷄卵の類とす。

○英國と貿易額の増加するは必ず輸入超過の時にあり、故に近年は英國品輸入を増し、四千五百萬圓の輸入に對し、輸出は一千一百萬圓なり、輸入品の重なるは綿絲及綿織にして約一千萬圓、次に鐵及鐵器六百五十萬圓、其他汽船、石炭等を多く輸入せり、又英國へ輸出するは米を第一とし、羽二重、麥稈、サナダ、銅等を主要の輸出品とす。

英領各地  
印度との貿易  
香港  
との貿易額は四千二百萬圓なり、此港を経て支那に次ぎ藍麻等なり。

輸入するを以て、輸出額多く、三千五百萬圓あり、其内銅を第一として八百萬圓に上り、次は石炭、摺付木、其他の雜貨なり。

濠洲との貿易額は四百萬圓にして、主として羊毛を輸入し、米及雜貨を輸出す。

加拿太とは二百五十萬圓の貿易額なり、内二百三十萬圓は輸出にして、羽二重雜貨等なり。

故に英國及英領との貿易額は實に一億五千四百餘萬圓の巨額に達せり、即ち我全貿易額の約 $\frac{7}{10}$ なり、内輸入は約一億圓なれば、我輸入品の三分の一以上は英國人の手を経る物なり、英國は實に斯く我國に對するが如くして、世界各國と貿易するなり。

○佛國との貿易額は三千五百萬圓なれども、我より輸出



する額殆ど三千万圓を占む、内生絲二千萬圓にして羽二重絹手巾、其他美術品なり、佛國よりは縮緬、吳呂、裝飾品等を輸入す。

獨逸

○獨國との貿易額は二千二百萬圓なり、内輸入一千八百萬圓にして、鋼鐵器、酒精、羊毛、羅紗、フランネル等を主とし、輸出は銅、米、魚油等の實用品を主とす。

朝鮮

○韓國との貿易額は一千二百萬圓に進めり、内輸出は七百萬圓にして、綿絲、綿織三百五十萬圓あり、其他は粗製の雜貨にして、輸入品は豆類、米を主とし、牛皮之に次ぐ。

西伯利

○西伯利との貿易額は七百萬圓あり、内輸入四百五十萬圓にして、石油、鹽魚を主とし、我國よりは雜貨を出す。

白耳義

○白耳義とは五百八十萬圓の貿易額にして、内三百萬圓

安南等

は鋼鐵器の輸入に係る。

○佛領印度との貿易額は五百萬圓あれども、其多分は米、綿の輸入なり。

伊太利

○伊太利とは四百萬圓の貿易額なり、内三百萬圓は我より出す生絲なり。

○比律賓とは二百七十萬圓の貿易額にして、多くは彼より輸入する苧麻、藍等なり。

其他の各國は著しく少額にして、二百萬圓に達せず、今貿易額の順序に擧ぐれば

- 獨逸 (一九三)
- 瑞西 (一八〇)
- 埃及 (一六〇)
- 和蘭 (一二三)
- 暹羅 (八〇)
- 露西亞 (七〇)
- 西班牙 (一六)
- 瑞典、諾威 (一四)
- 土耳其 (一三)
- 葡萄牙 (三萬)
- 丁抹 (三萬)



墨西其秘露伯刺西爾希臘の四國は甚だ少額なり。  
 貿易港 現今我二十八貿易港の中、最も貿易額多きは神戸にして一億九千五百萬圓餘なれば、我全貿易額の四割は此港にあり、横濱も一億八千五百萬圓なれば、全額の三割八分を占む、故に此兩港を以て、全額の百分の七十八を占められたば、他の二十六港にては僅に百分の二十二なり、神戸港には輸入多く、横濱港は輸出多し。

長崎は第三にして一千七百餘萬圓なり、大阪港は一千三百万圓にして第四位たり、次に門司は七百萬圓にして多くは石炭の輸出なり、次に貿易額の順序を擧ぐれば左の如し。

- (六) 下ノ關 (萬圓五六三)
- (七) 口ノ津 (萬圓四三四)
- (八) 函館 (萬圓三八五)
- (九) 四日市 (萬圓七〇)
- (一〇) 佐濱奈 (萬圓五四)
- (一一) 小樽 (萬圓五三)

臺灣の貿易

- (一) 室蘭 (萬圓四八)
- (二) 武豐 (萬圓四五)
- (三) 三角 (萬圓三八)
- (四) 唐津 (萬圓三七)
- (五) 新潟 (萬圓二五)
- (六) 嚴原 (萬圓二〇)
- (七) 清水 (萬圓一八)
- (八) 伏木 (萬圓一)
- (九) 宮津 (二)
- (一〇) 鹿見 (三)
- (一一) 境 (三)
- (一二) 七尾 (二)
- (一三) 濱田 (二)
- (一四) 博多 (二)
- (一五) 敦賀 (二)
- (一六) 那覇 (二)

絲崎 (二) 敦賀 (二) 那覇の各港は十萬圓未滿なり

臺灣は十三貿易港の内、最も盛なるは淡水港にして一千七百萬圓は此港に據れるを以て、全貿易額の半數は此港に行はる、次を安平港とし、四百二十五萬圓なれば、全額の $\frac{1}{5}$ を占む、以上兩港は著しく盛にして、次は塗葛屈 (百萬圓) とし、第四は鹿港 (百萬圓) 第五は打狗 (百萬圓) 第六基隆 (百萬圓) なり、他の各港は貿易額左の如し。

- (七) 東石 (萬圓四〇)
- (八) 舊港 (萬圓三一)
- (九) 媽宮 (萬圓三〇)



貿易額の増

- (一〇) 下湖口 (二一 萬圓)
- (一一) 東港 (二〇 萬圓)
- (一二) 後壠 (一五 萬圓)
- (一三) 蘇灣 (〇)

我國の貿易額は卷首に示せるが如く、過去十年間に一億四千二百萬圓より、四億九千萬圓に増加し、即ち三倍四の増加なれども、實際臺灣の貿易額二千五百萬圓を加ふれば、五億一千五百萬圓に増加し、即ち三倍六二の増加なりとす。

### 日本政治地理了

明治三十四年三月九日印刷  
 明治三十四年四月一日發行

日本政治地理

正價金壹圓卅錢

著 作 者

東京市小石川區西江戸川町九番地  
 矢 津 昌 永

發 行 者

東京市日本橋區通三丁目十四番地  
 丸 善 株 式 會 社

右代表者

專務取締役  
 小 柳 津 要 人

印 刷 者

牛込區市夕谷加賀町一丁目十二番地  
 佐 久 間 衡 治

印 刷 所

牛込區市夕谷加賀町一丁目十二番地  
 株式會社 秀英舎 第一工場



### 發 賣 所

東京市日本橋區通三丁目  
 丸 善 株 式 會 社  
 大阪市東區博勞町四丁目  
 丸 善 株 式 會 社 支 社



- (一) 下湖口 (二) 東港 (三) 後壠
- (四) 蘇灣

我國の貿易額は卷首に示せるが如く、過去十年間に一億四千二百萬圓より、四億九千萬圓に増加し、即ち三倍四の増加なれども、實際臺灣の貿易額二千五百萬圓を加ふれば、五億一千五百萬圓に増加し、即ち三倍六二の増加なりとす。

### 日本政治地理了

明治三十四年三月九日印刷  
 明治三十四年四月一日發行

日本政治地理  
 正價金壹圓卅錢

著 作 者

東京市小石川區西江戸川町九番地  
 矢 津 昌 永

發 行 者

東京市日本橋區通三丁目十四番地  
 丸 善 株 式 會 社

右代表者

專務取締役  
 小 柳 津 要 人

印 刷 者

牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地  
 佐 久 間 衡 治

印 刷 所

牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地  
 株式會社 秀英舎 第一工場

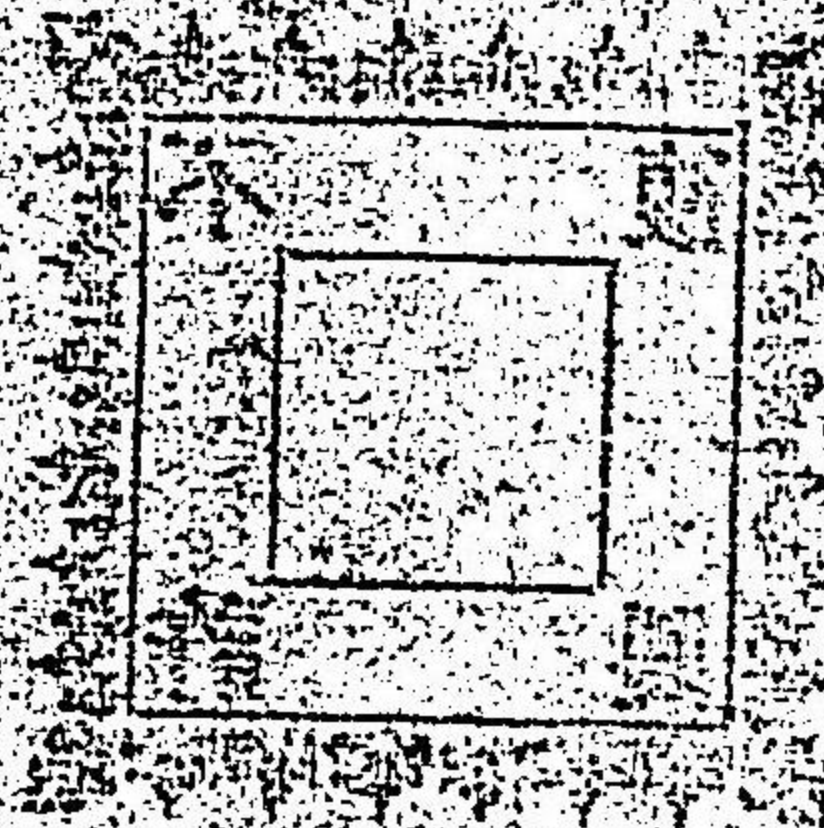


### 發 賣 所

東京市日本橋區通三丁目  
 丸 善 株 式 會 社  
 大阪市東區博勞町四丁目  
 丸 善 株 式 會 社 支 社



昭和二十四年四月一日  
昭和二十四年三月三十一日

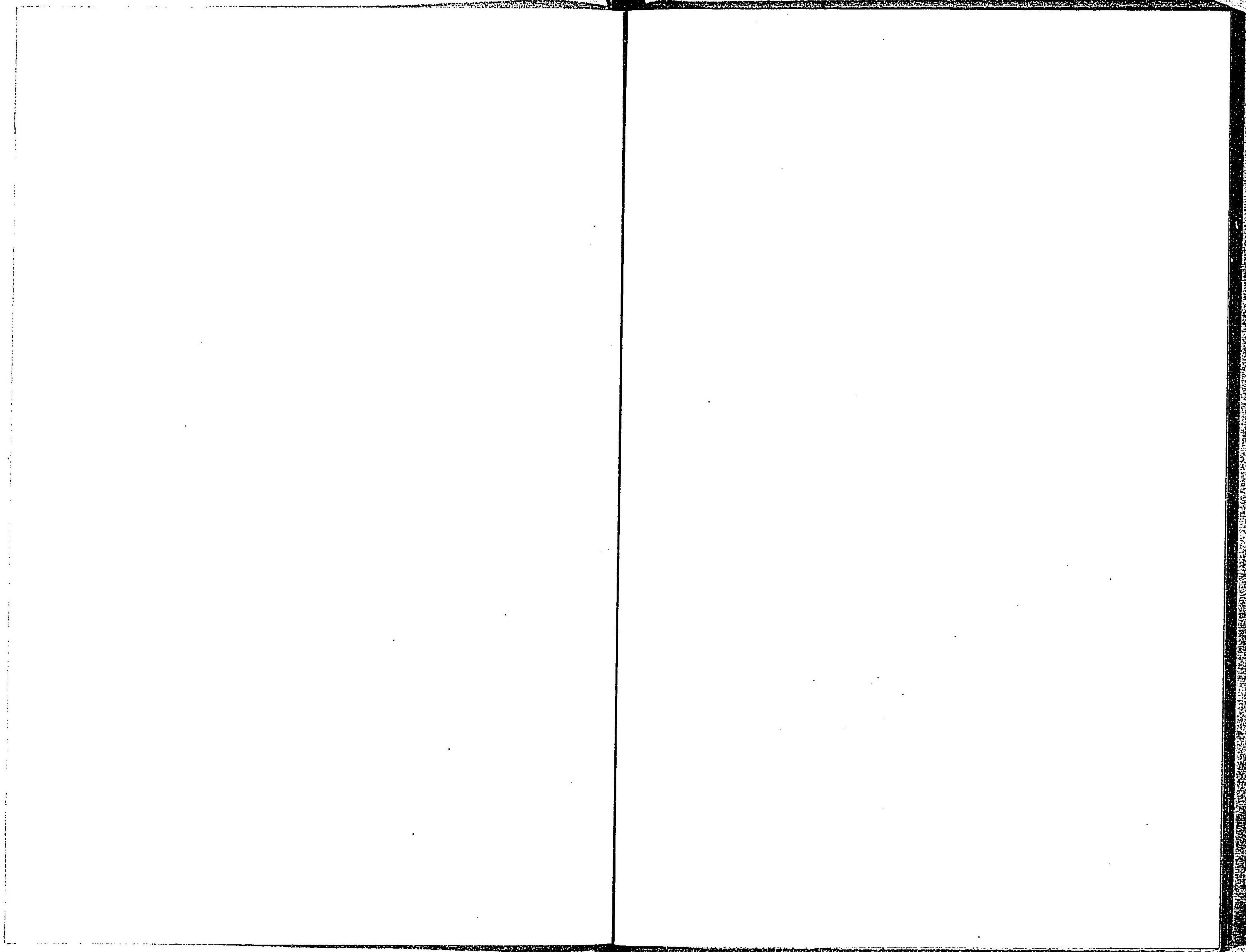


昭和二十四年四月一日  
昭和二十四年三月三十一日

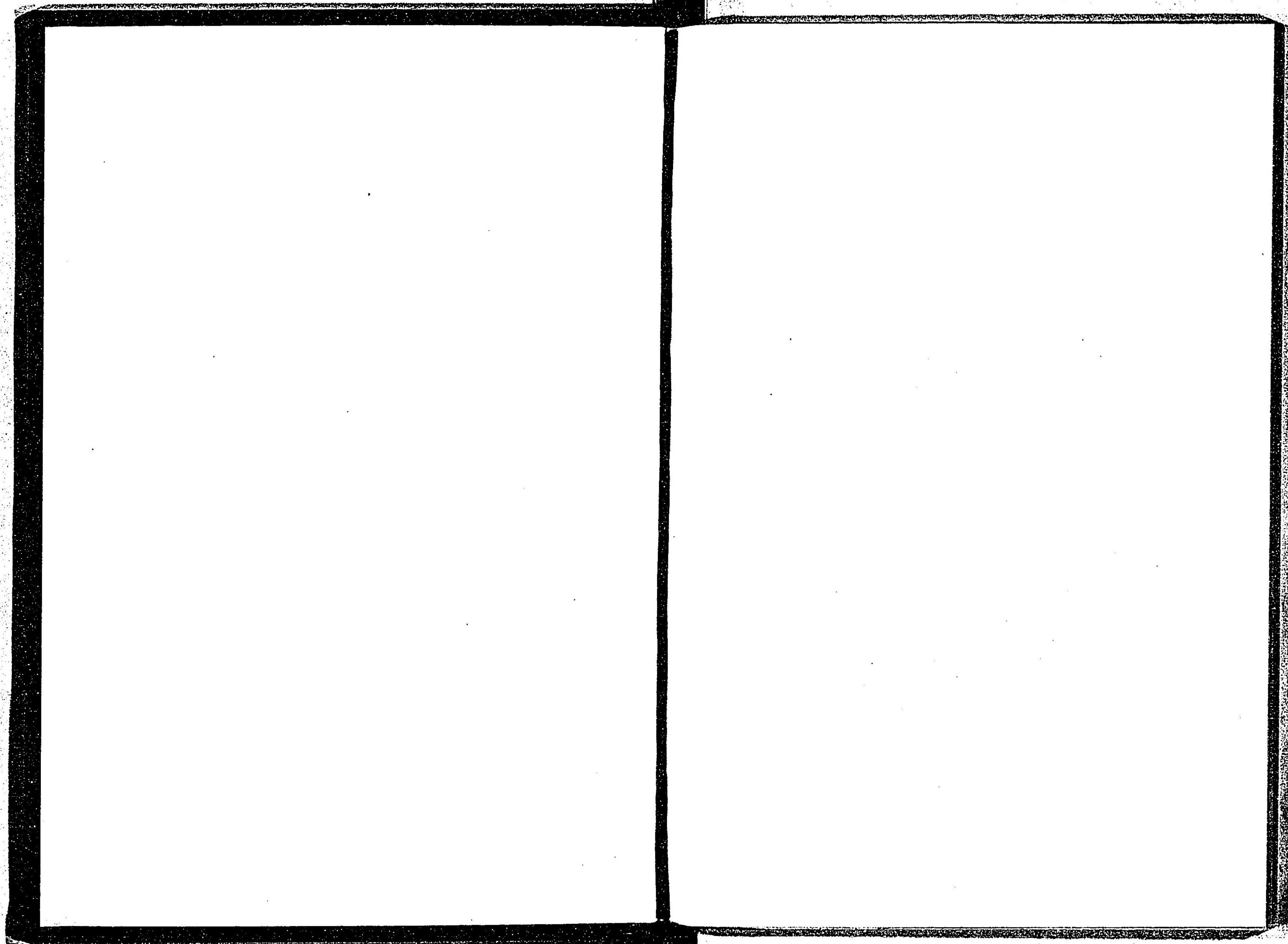
昭和二十四年四月一日  
昭和二十四年三月三十一日

昭和二十四年四月一日  
昭和二十四年三月三十一日

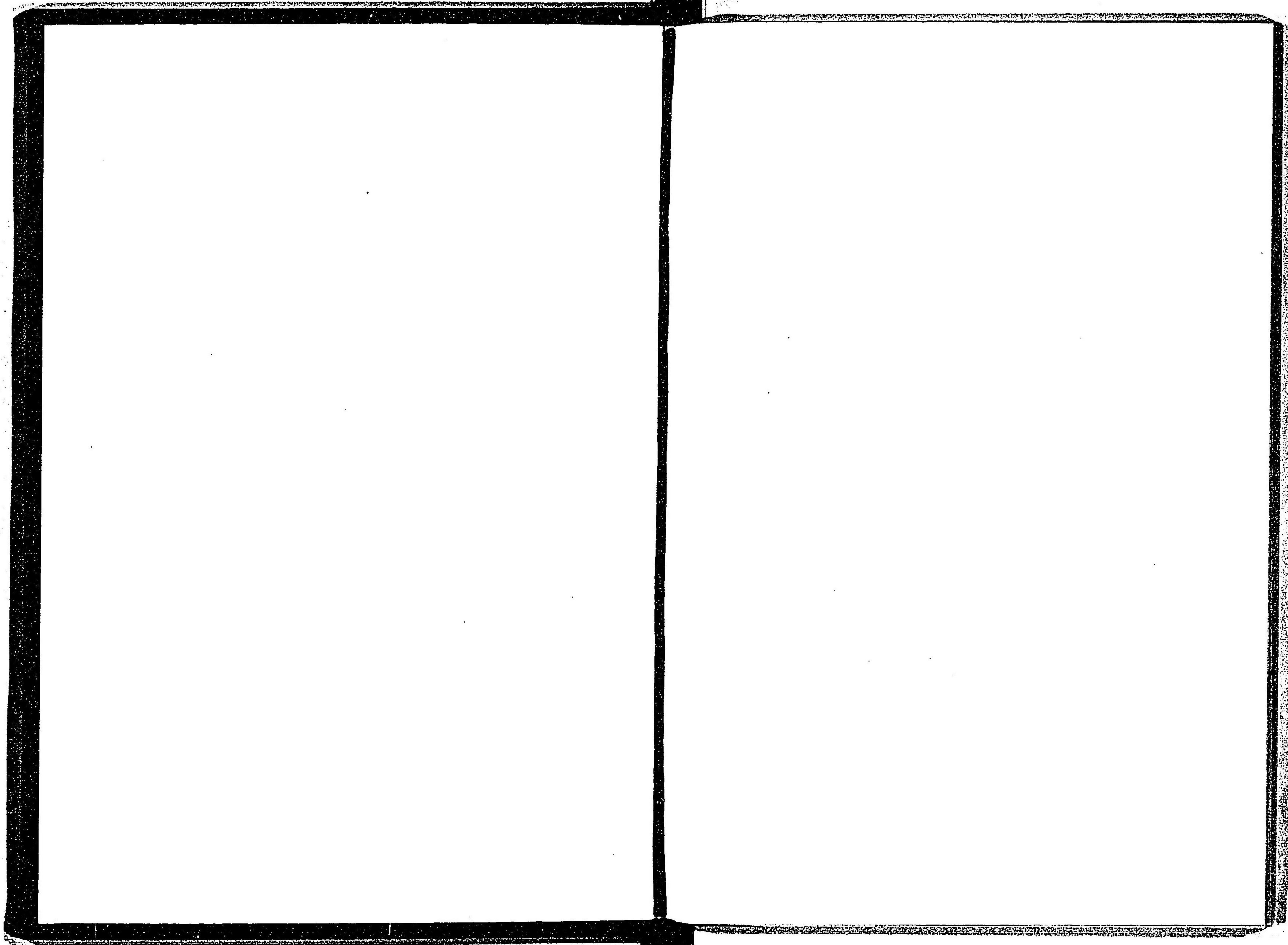




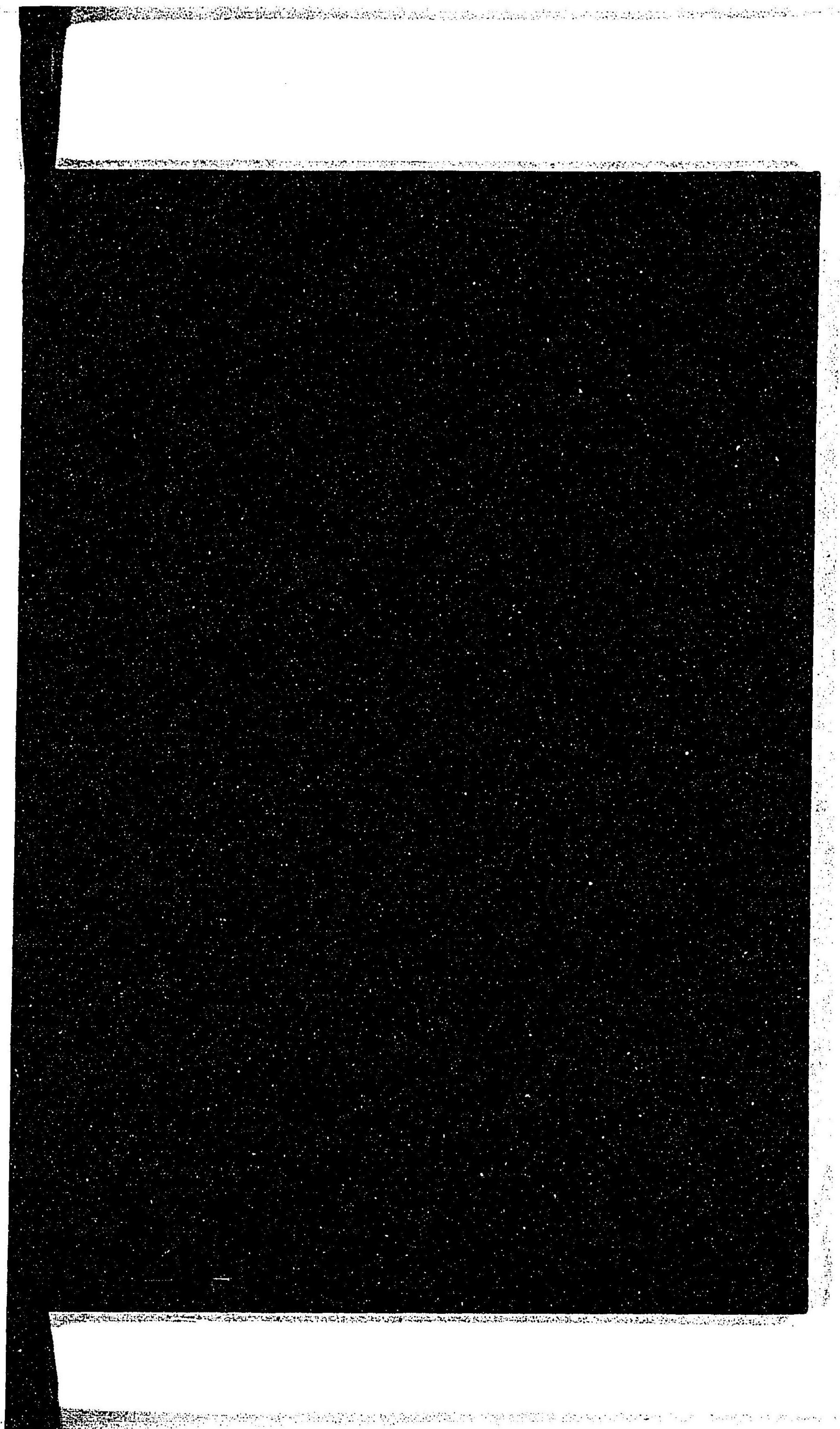














90  
103  
M

022778-000-4

90-103

日本政治地理

矢津 昌永/著

M34

ADB-0574





